アサヒグループHD システム障害1か月 復旧めど立たず 現場は

2025年10月29日午後3時35分
（2025年10月29日午後6時30分更新）

シェアする

サイバー攻撃

アサヒグループホールディングスでサイバー攻撃によるシステム障害が起きてから29日で1か月です。システム復旧のめどは依然として立っておらず、ビールをはじめとする酒類の出荷は一部にとどまるなど影響が続いています。

通販大手のアスクルなど国内の企業で相次ぐサイバー攻撃の被害も含めたいまの状況をまとめま

目次

4項目

- 飲食店 アサヒの生ビール入荷半減 不足分は他社商品を提供
- アサヒグループHDが被害を受けたシステムとは

すべて表示

アサヒグループホールディングスは、先月29日、身代金要求型のコンピューターウイルス＝ランサムウエアによるサイバー攻撃を受けてシステム障害が発生し、1か月がたった今も、システム復旧のめどは立っていません。

商品の受注や出荷はシステム障害の影響で一時、全面的に停止したものの、現在は電話やファックスなどで注文を受けつけ、一部の商品を出荷しています。

ただ、顧客から受注できる量には限りがあり、ビールなどの酒類については、需要の高い商品の供給を優先しているということです。

忘年会などビール会社の稼ぎ時でもある年末商戦が近づく中、事態が収束するめどは立っておらず、業績への影響も不透明な状況となっています。

こうした中、アサヒ以外の大手ビール各社では、これまでアサヒのビールを仕入れていた飲食店向けの注文が相次いだこともあり、一部の商品の出荷を調整する動きが続いています。

飲食店 アサヒの生ビール入荷半減 不足分は他社商品を提供

システム障害が続く影響で、都内の飲食店では、これまで扱ってきたアサヒの生ビールが足りず、一部についてはほかのメーカーの商品を提供する対応をとっています。

東京 港区にある焼き鳥店では、システム障害が発生するまでは生ビールはアサヒのみを扱っていて、19リットル入りのたるを1日に1本から2本ほど仕入れていました。

ところが、先月29日にシステム障害が起きて以降、入荷する量が半分ほどに減る状況が続いていて、足りない分については、ほかのメーカーの生ビールを提供する対応をとっています。

店では、アサヒの商品を優先して提供しているものの、状況によってはアサヒのグラスで他社の生ビールを提供することもあるといいます。

また、この店はアサヒの乳酸飲料も扱っていますが、一時、在庫が切れて1週間ほど客に提供できなくなるなど、仕入れが不安定な状況が続いているということです。

「串焼 とさか」の高見澤拡之さんは「取り引き先の酒屋からはまだ見通しがつかないと聞いています。アサヒの生ビールを扱いたいと思うものの1か月間、ほぼ変わらない状態で、少し不安になってきているところがあります」と話していました。

アサヒグループHDが被害を受けたシステムとは

アサヒグループホールディングスでは、生産や物流、人事などそれぞれの業務に分かれた基幹システムを設けていました。

このうち今回被害を受けた物流の基幹システムは、商品の受注や出荷のほか、在庫の管理なども担っていて、国内のグループ各社の流通に関わる業務を支えていました。

ランサムウエアへの感染で、このシステムを使った商品の受注や出荷が停止したことから、一時は国内におよそ30ある工場の多くで生産が停止する事態になりました。

その後、会社はシステムを経由せず、営業部署の担当者らが電話やファックスなどで注文を受ける対応に切り替え、生産を再開しました。

ただ、生産現場は表計算ソフトに入力された注文データを確認しながら作業を続けていて、出荷できる量は現在も限られているということです。

酒問屋 一時の在庫不足から入荷量ほぼ通常に戻るところも

東京 府中市にある酒の問屋では、樽や瓶のビールを飲食店向けに販売していますが、システム障害が発生してからアサヒの商品の多くを十分に仕入れることができず、一時は在庫が不足する事態となっていました。

このうちビールについては、先週ごろから入荷量がほぼ通常の水準に戻ってきたということです。

ただ清涼飲料水については、今も仕入れが安定しないものがあり、十分な在庫を確保できない状況が続いています。

また発注業務などを行うグループ会社では、現在もファックスや電話による注文を続けているということです。

村野商店の村野太郎社長は「主力のビールなどは大丈夫だがまだ少し足りないものもあるので、これらについては少し時間が必要かなと思う。できれば12月までには何とか正常に戻ってほしい」と話していました。

「自治体の子育て支援事業」にも影響広がる

アサヒグループホールディングスのシステム障害の影響は、自治体の子育て支援事業にも広がっています。

東京 江戸川区では、区内の0歳の子どもがいる世帯に毎月、おむつや離乳食といった希望する育児用品を無料で届け、子育ての悩みを聞くなど、見守りの取り組みを行っています。

事業の対象となる育児用品には、アサヒグループホールディングスのグループ会社が製造している離乳食や粉ミルクなど17商品が含まれています。

区ではシステム障害の影響で、委託先による仕入れができなくなったため、先月30日からこれらの商品の受け付けを一時停止する対応をとっています。

離乳食や粉ミルクについては従来からほかのメーカーの商品も用意しているため、大きな支障は出ていないとしていますが、現時点で受け付け再開の見込みは立っていないということです。

システム障害続く通販大手のアスクルでは

一方、今月19日からサイバー攻撃によるシステム障害が続く通販大手のアスクルは、ネット通販サイトでの受注や出荷を現在も停止していますが、会社は29日までに医療機関や介護施設を含む一部の取引先については、試験的にファックスでの受注を始めました。

取り扱うのはコピー用紙やペーパータオル、トイレットペーパーなど一部の商品で、サイバー攻撃を受けたシステムは使わずに、出荷作業などを行っているということです。

国内企業で相次ぐランサムウエアによるサイバー攻撃の被害

ランサムウエアによるサイバー攻撃の被害は国内の企業で相次いでいます。

▽紳士服チェーンを展開するはるやまホールディングスは、ことし6月に確認されたサイバー攻撃によって、顧客や取引先など1万8000件あまりの個人情報が流出した可能性があると明らかにしています。

▽今月には、通販大手のアスクルでサイバー攻撃によりネット通販サイトでの商品の受注や出荷が停止したほか、アスクルの子会社に商品の配送を委託していた「無印良品」を展開する「良品計画」や雑貨店の「ロフト」などでもネット通販で商品の購入ができない状況が続いています。

警察庁のまとめによると、ランサムウエアによるサイバー攻撃の被害はことし6月までの半年間に116件報告されていて、対策は多くの企業にとって差し迫った課題となっています。

“ランサムウエアの攻撃リスクある機器 国内5万台余” 調査も

相次ぐ被害を受けてセキュリティー会社が10月下旬、ランサムウエアの侵入経路の大半を占める企業のリモートワークなどに関わる機器について調査しました。

その結果、「VPN」と呼ばれる機器では、不正アクセスされるおそれのあるぜい弱性を修正しないまま、外部に公開されている状態になっているものが、国内でおよそ4900台確認されたということです。

また、自宅などから会社のパソコンを操作できる「リモートデスクトップ」の認証画面が、公開されているものも4万6000台余り見つかりました。

調査したセキュリティー会社では、これらの機器は攻撃されるリスクのある状態だとして、VPN機器のソフトウエアを最新の状態にし、リモートデスクトップの設定を確認するなど、対策を強化してほしいと呼びかけています。

セキュリティー会社「マクニカ」のリサーチャー、瀬治山豊さんは「ランサムウエアに感染するケースが増えていますので、自分たちの会社の設定が大丈夫かをきちんとチェックすることが大切です」と話していました。

注目ワード

サイバー攻撃　家庭・子育て　東京都　ニュース深掘り